



子ども総合センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第53号) 令和2年11月号

子どもの育つ遊び環境を

子どもたちは、自然の中での遊びを通して、心も体も育ちます。

多少の足元の悪いところでも、バランス感覚が育ち、怖さの体験やそれをクリアした達成感。また、不便な場所を基地に自分たちで想像力を働かせて作るわくわく感。

仲間との話合いで、時には口論でけんかして、仲直り。小さな子どもの社会のなかで、たくさんのかんじ、体験して学びます。

そして、その体験や感覚が心にしみこみ、自信につながっていきます。

子どもの頃にした、かくれんぼ。鬼に見つからないように息をひそめてドキドキ。見つからずに鬼が通りすぎた安ど感。そして、見つかった時の、びっくりや、

ショック。たくさんの自分の心の動きを遊びから味わいます。ルールを学び、自分の感情をコントロールする力を身に付けます。

大人になって初めて失敗経験をして挫折し、心を閉ざしてしまうことがあります。子どもの間にたくさんの体験、経験を積み重ね、心も体もたくましく育ててほしいですね。

先日知り合いが、「面白いもの作ったから遊ばせてあげる。」と、河原の大きな木にロープをひっかけてブランコをつくって誘ってくれました。アルプスの少女さながら、ふり幅の大きさに怖さもありましたが、心地よい風に、童心に返った気分でした。(H・I)



適応指導教室「はばたき」

～みんな自分の道を見つけて～

適応指導教室が開設されて今年で5年目。初年度の卒業生は今年4月に高校を卒業して自分の道に向かって大学や専門学校に進学したり社会人となったりしています。

また、高校3年生の一人は「先生、夏休みに車の免許がとれたよ。」と電話の向こうから元気な声で報告をしてくれました。高校2年生、1年生になる卒業生も元気に高校生活を楽しんでいる様子を夏休みに報告に来てくれました。

中学生の頃は学校に行けなくて悩み苦しんでいた子どもたちが、自分の道を一生懸命に歩いている姿を報告してくれ、元気な姿を見せてくれることが何よりもありがたいです。

つまずいても起き上がり、今は自分の足でしっかりと歩いていることをうれしく思います。現在のはばたき教室に通っている子どもたちも、迷いながらも少しずつ自分に自信を取り戻しながら生活をしています。

子どもたちがエネルギーをためて、次の場所で頑張る様子をこれからも見守り続けたいと思います。

ポツンとたくましく生きる

毎週日曜日の午後8時から放映されている「ポツンと一軒家」を楽しみに見ている。航空写真から見ると、「へえー、こんなところで生活している人がいるんだ」とびっくりするばかり。近くの集落から、正にぽつんと離れて一軒家である。

どんな人がどんな暮らしをしているのか気になってしまうが、どの取材先からもそこに住む人の熱い想いが伝わってくる。自分でその場所を切り開き、家を自分で建て、家族で住んでいる。自給自足の生活がそこにある。

米を作り、野菜を育て、家で飼育した鶏を父親がさばいて料理する。その料理をみんなが、「美味しい、美味しい。」と言いながら

食べる。あったかい雰囲気周囲を包む。

食べ終わった子どもたちはすぐに家を出て裸足で山道を走り、どろんこになって遊び回る。途中、イノシシやヘビ、ハチ、ムカデなど、危険な生き物にも出会いつつ、擦り傷、切り傷が絶えない日々。でも、その子どもたちの表情は明るく、実に生き生きとしている。

そんな子どもたちに両親がしっかりと寄り添って暮らしている。この環境が子どもを子どもらしく大きく育てているのだろう。

「ポツンと一軒家」。

実は「たくましく生きる家族の一軒家」なのかもしれない。(K・H)



発達支援巡回相談

センター長のつぶやき 「港南家族」

家族という言葉は、それだけで温かみを感じる。母の愛情をたっぷり受け、みんな仲良く過ごし、ありのままの自分でいられる「心の港」。いつも大切にしてくれるという安心感のある、そんな家族という言葉が大好きである。

教員生活最後の3年間を過ごす港南中学校のスローガンに迷いはなかった。生徒と先生。保護者と先生。生徒同士。先生同士も家族のような温かい学校。お互いを心配し、一人ひとりを心から尊敬し、大切に思えるような関係であってほしいとの願いから「港南家族」とさせていただいた。

このスローガンのもと約1000日間、子どもたちは大活躍し、先生方、保護者の皆様にも家族のように接していただき、とても幸せな日々を過ごすことができた。S先生の提案で「港南家族」のポロシャツができ上がり、毎年の運動会で先生方が着てくれた。

今年はコロナ禍で出席できなかったが、昨年の運動会でもこのポロシャツを着ている先生方がいらっしやった。感謝。

「港南家族Forever」 (DOIG)



「楽しいねー」

聞こえの悪さもあるのか、いつもぼんやりしているA君。このところ。ずっとにこにこしてみんなの顔を見ています。

園でご飯を食べている時、一緒に遊んでいる時、「楽しいねー。」と先生が言って、目を見て、にこっと笑うようにしている。それも、関わる先生がみんな心がけているとお聞きしました。こちらまで笑顔になるお話でした。

他の子の顔をきよろきよろ見回し、にこにこしながら先生に手をひかれて運動会練習をするA君。

園の先生方は「当たり前のことです。」と言われますが、先生方の何気ない心遣いに感謝です。

きっと、A君は楽しい運動会を迎えたに違いありません。(A)



伊予市子ども総合センター
伊予市尾崎3-1

伊予市総合保健福祉センター2階
☎089-989-6226

